

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401028		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム 慈幸苑		
所在地	玉名市横島町横島2493-1		
自己評価作成日	平成26日10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑は有明海、雲仙が一望出来る玉名市横島町外平山の中腹に位置し、雲仙岳に沈む夕陽に季節の移り変わりが感じられる自然豊かな環境にある。
 入居者、ご家族、スタッフを1つの家族と捉え、家庭的な雰囲気でお1人お1人のペースに合わせ、出来る事を活かした役割を担って頂いている。
 楽しく安心した日々が送れる事を第一に、ご家族、法人の支援を得ながら年間を通してたくさんの外出行事を行い、その方の“今”を大切にしたい支援で笑顔の絶えないホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所時から変わらぬホーム内の雰囲気が訪れる者を温かく向かい入れ、リビングに集う入居者の生き生きとした表情が日々の生活を物語っている。小学校の同級生だったという女性入居者は、互いを通時のままの呼び名で呼び合い、時が止まったかのように昔をしのび会話される様子に、ここで再会されたことを喜ばずにはおれない。地域と距離を置く場所にあっても、入居者が出かけたいときに出かけ、様々な交流を通じて地域の一員であることの自覚を持って生活していることが窺われる。新たに入られた入居者が一日も早く自分のペースを取り戻すようバックアップ体制もとられている。法人との合同タレは日課となり、管理者が同じところで働く者同士、顔を合わせることが大切であると語るように今後も、連携して高齢者福祉に力を尽くされることが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を施設内に掲示し、又、常に目にする日誌に貼付し、全ての職員が目にするようにしている。運営推進会議でも理念・方針を伝えている。	開所時からの理念は継承され、日々の日誌に添付することで常に意識を高め振り返りの原点としており、一人ひとりの入居者に、居心地のよい環境を作り、安心して過ごすことのできるホーム運営を心情としている。年度初回の運営推進会議でも理念について家族や地域へ向け、啓発の機会を持っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商店への買い物同行や町の文化団体主催の催し物への参加、又地元小学生との交流もあり、小学生の来苑もある。	地域の花火大会見学は恒例となって、入居者の「た～まや～！」のタイミングの良い掛け声が毎年聞かれている。文化祭や地元商店への外出時には顔見知りの人々と再会し、馴染みの床屋での整容など資源を活用し、地域へ出る機会を後押ししている。小・中学生の体験学習には子供たちが手作りのゲームを持参したり、おやつ作りを一緒に楽しむなど入居者が心待ちにされており、職員が認知症サポーター講座に地域へ出向くなど総合的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、スタッフの地元地区での会合を通じ、実践で得た知識・技術を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ご利用者の生活ぶり等を報告し、様々なご意見を頂き、サービス向上に努めている。	推進会議メンバーに昨年11月から包括センター職員も加わり、行政や地区・家族会代表者と共に活発な意見交換が行われている。会議の中で日の浅い入居者のサポートを依頼したり、短期間ではあったが空き室の活用を打診する等、ホームの現状を明らかにし、参加者の意見や提案を運営に活かしている。また、会議を利用し避難訓練に参加してもらうことで、入居者の動きや支援の在り方を体験してもらうなど危機管理についても共有している。	新たに包括職員がメンバーに加わるなど、より有意義な話し合いが期待されるところであり、今後はホームと交流のある学校関係者などへも会議参加の依頼をすることで、更に意見の拡充に繋がる事を期待したい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、苑の現状報告を行っている。疑問時は相談、助言を頂くことが出来ている。	行政担当者の推進会議の参加によりホームの現状を正確に報告し、信頼を得ながら、今年度はショートステイなどの相談に応じてもらっている。管理者は質問や気になる点があれば、電話で連絡したり書類提出などで行政を訪れた際には、直接話を聞くよう心掛け、良好な関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の勉強会開催に加え、法人の方針である“鍵なし、眠剤なし、抑制なし”が周知徹底出来ている。	法人の拘束排除の精神がホーム運営に継承され、職員は気になる事があれば気づいた時点で話し合い、ホーム会議に取り上げて検討している。特に言葉使いについて、親しい関係ゆえに普段何気なく使っている言葉も今一度振り返り、入居者への対応が適切であったか否かを各職員が自身に投げかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会開催や現場の職員間の情報共有を徹底し、虐待が起こらない体制が出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等閲覧出来るようにしており、情報が必要なご家族には随時提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類にて説明、納得して頂き、サービス開始へと繋げている。不明点はいつでも問い合わせさせて頂くよう言葉をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時や面会の折に意見、要望を伺うように努めており、職員間の話し合いや法人からもアドバイスを頂き、運営に反映させている。	職員は普段の関わりの中から入居者の生の声を聞き取り、「天気によかね～！どっかいこか～」など、外出の要望にその日のうちに出かけるなど、早い時点で対応することで入居者の思いに応えている。毎年恒例の一日旅行は家族会の中で検討され、入居者の楽しみとなっている。ホームや外出先で初めて見る入居者の様子や嗜好の変化などに逆に家族が驚く場面も見られるようである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議の開催や日々の業務の中で話し合い、意見を出し合い、ケアに反映させている。	職員からあがった入居者への声かけの方法や、タイミングなどのきめ細やかな提案や業務改善に繋がる意見等日頃出された内容については会議の中で全員で検討している。ホームだけで解決が難しい場合は法人と共に協議し、より良い運営に反させている。ホーム内は入居者と職員の関係が深く穏やかな日常が展開されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	急病、急用時の勤務変更や希望休暇取得も配慮し、職員間の協力体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会への参加や施設外研修へ参加し、伝達も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への加入により、年6、7回の協議会参加や施設内交流、情報交換を行い、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問を行い、本人や家族の思いを聞き、不安除去を行い、寄り添うように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問を行い、ご家族の意向に沿った支援を行い、信頼感を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向、思いを十分把握し、必要とする支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人・ご家族・職員がひとつの家族と考えており、日々大家族で暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も含めた“大家族“グループホーム慈幸苑”と捉えており、ご家族と共にご本人の今を大切に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人のデイご利用のご友人への面会、特養入所者の知人への面会に行かれている。 又、地域に住むご友人のホームへの面会もある。	入居者にとって遠くの海や、ミカン畑を間近に見れることが、何よりの馴染みの環境である。正月や盆の帰省をはじめ、元日の神社参りなど古くからの慣わしも継承されており、入居者にとって大切にしたい時間が提供されている。また、幼少のころからの同級生と同じホームで過ごされている方もおられ、会話の一つひとつが実に和やかで「これからも変わらぬ時間を過ごして欲しい」と職員は語っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時は手を取り合い、助け合われる姿も見られる。リビングでは座位置を工夫し、会話の仲介を行い、一人となられないよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後も訪問し、会話の時間をもつように努めている。退所された後も来苑される事もあり、ご利用者を中心にご家族との会話の時間も多し。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がホームでどのような暮らしを望まれているかを会話の中や行動から気持ち把握し、スタッフ間での情報共有に努めてご本人の気持ちに沿った支援を行っている。	職員は入居者がこれからどのような暮らし、時間を持たれたいのか、本人や家族の意見も確認しながら最良の支援に繋がるよう日々の関わりを大切にしている。ホームはその方のペースでゆっくりとした支援が展開されている事や、家族との連携も十分図られており、その方の思いや意向をプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問でご利用者の生活歴を把握し、又、ご家族との会話の端々から馴染みの暮らし方等の情報を頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細な記録を残し、お一人お一人を理解することに努め、現状を見極め、それぞれの生活リズムを把握するよう努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間では必要時ホーム会議を実施し、ケアプラン担当者は状況を皆で把握出来るよう問題点等を提起し、現状の把握に努めている。又、法人関係者からも意見を頂きながら現状に沿った支援を行っている。	入居間もない方が一日も早くホーム生活に慣れ、自分のペースで生活できるような環境を職員や家族、関係者と共に考えプランに掲げている。計画作成担当者は「出来る事、出来ない事は見ていればわかるが、したいことは引き出さないとわからない」として、入居者本人との関わり的重要性を語っている。プランの説明にあたっては丁寧な対応を心がけ了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、入浴時、準夜、深夜とケース記録に詳細に残し、情報を共有し日々のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年末年始の外出、外泊、法事、食事会等突然の申し出にも対応しその時、その日を大事にする支援を行っている。又、天候や体調をみながら外出行事を行うなど法人の協力を得ながら柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元小・中学生との交流もあり、当施設の行事には地域の各団体のボランティア参加も多数あり、支援に繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携も確立しており、月2回の嘱託医の往診もある。急変時その都度対応出来る体制がある。専門医の受診が必要な場合、ご家族の都合がつかない時は宛にて対応出来る体制がある。	現在は全員が協力医をかかりつけ医としており、月二回の往診支援が行われている。他科受診については、協力医より紹介状を受け、基本的に家族対応としているが、困難な場合はホームでも支援している。職員は些細な変化も見逃さず、特に、昼・夜の状況は細やかに情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である特別養護老人ホームの看護師による医療連携が整っており、日常の変化や異常時に、素早い対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合、認知症の進行するケースがあり、ご本人の気持ち、ご家族の気持ちを踏まえスタッフが病院へ出向き馴染みの顔を見せることもある。病院関係者と情報交換を密に行い、早期の退院へと繋がるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの文書にご記入頂き、ご本人の状況に応じご家族と話し合いを持ちながら、ご本人・ご家族が望まれる最期を迎えられるよう取り組んでいる。	利用開始時にホームの方針や出来る支援について説明を行い、家族の意向確認書もらい、その都度話し合いを行うことや、何か心配なことがあればいつでも相談して欲しいと伝えている。また、推進会議の席でも重度化や終末期支援についてホームの取り組みが説明されている。	終末期支援について、あらたまった勉強会ではなく、今後も縁あって入居された方の最終の場面を支える支援について、共有を図る機会を持たれることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じ、連絡・報告の徹底が出来ており、医療連携体制がある。勉強会において急変時の対応について習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、避難訓練等を消防署立会いの下、安全に避難出来るよう定期的実施している。運営推進会議のメンバーでもある該当行政区の区長さんにも避難訓練に参加して頂き、地元の消防団、住民の方々へも協力頂くようにしている。	台所からの出火を想定した今年度1回目の訓練では、推進会議のメンバーの協力も得、行われている。総評ではすばやく短時間で避難誘導が行われたが、声が小さかったと指導を受けている。次回は11月に夜間を想定した訓練が予定されている。職員は毎朝ホーム周辺の安全点検を行う他、喫煙される方の楽しみを損なわないようにしながら安全管理を徹底している。法人で水や米などの食備蓄を準備し、職員にも共有されている。	訓練では署員より声を出すことの重要性が指導されており、今後の訓練で活かされることが望まれる。今後も、日々の安全確認や地域との協力体制の強化をはじめ、昨今の自然災害についても机上訓練などによる意識付けを図っていかれることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳やプライバシーに配慮し、失礼のないように各入居者に応じた声掛けを心掛けている。失禁時等は他者に分からないように声掛けをし、本人が嫌な思いをされないよう配慮をしている。	尊厳やプライバシーに配慮した支援については、法人全体で徹底されている。入居間もない方が慣れられず、外出傾向からの散歩中、地域の方と挨拶を交わす際も、「散歩中です！戸外がお好きですのでよろしくお願いいたします」と、紹介するなど尊厳に配慮した細やかな対応をしている。個人情報については家族の了解を得、守秘義務については職員研修などで指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望が表現しやすいように“どうしましょうか”とまず尋ねることにしており、本人が答え易いような質問や自然と身体が動き出するような雰囲気作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の気分や状況に応じた働きかけを心掛け、どのように過ごしたいのかを大切に思いやり、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣不十分な時はさりげなく声掛けを行い、その季節に合った服選びを一緒に行っている。理髪は地域の美容院や法人に定期的に来苑される理容サービスを利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	計画的に献立は作成しておらず、その日の入居者の気分、希望に応じたメニューを作ったり、ホームの菜園で収穫した旬の食材を取り入れながら、食材の下ごしらえ等入居者と共に食事作りから片付けまで展開している。ご自分のペースで食事を摂って頂けるように食席の配置も工夫し楽しい食事となるよう支援している。	その日の入居者の希望を確認し、菜園の野菜や地域商店での食材購入により、主婦の経験を活かした料理の提供は入居者の楽しみとなっている。また、一緒に作り一緒に食事を摂ることで、食事時の会話も更に弾み、歌が飛び出したり、食の進まない方への入居者同士の声掛けなど、食事環境の大切さを感じる光景であった。日帰り旅行の食事では、ひと品ずつ提供される懐石であったことから、全メニューが揃ったパンフレットを添付し、思い出の写真を作るなど、職員の工夫が感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状況に応じた形態や量を個別に対応している。職員は共に食事を摂ることで水分や食事量を把握し、1日の必要量がトータルで補給出来るよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、各居室にて行っている。磨き残しがあれば再度声掛けをし、介助する場合もある。介助拒否ある方もタイミングを見計らい、気持ちの向く声掛けにて対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ノートを活用し、トイレでの排泄に繋がるよう支援している。自立した方で長時間排泄が無い時はそれとなく移動の声掛けでトイレへと誘導している。尿意・便意曖昧な方がおり、その方のサイン等見逃さぬよう常に目配りをし、気持ちよく排泄へ繋がるよう支援している。	排泄ノートを活用し、自立の方やしづさから察知しての声かけ、カート仕様の方など日中は全員布下着で、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間も布下着を支援し、安全面でポータブルトイレを使用される方もあるが、巡視を兼ねトイレ誘導が行われている。どうしても失禁の心配がある方には、尿とりを使用することもある。設けられた三ヶ所のトイレは清潔に管理され、入居者は使い慣れた場所で安心して排泄を済まされている。	ホームは遠方に外出する際も安易に紙パンツに頼ることなく、多めの着替えを準備し布下着支援に努めている。入居者一人ひとりを知り、職員間の連携が活かされた支援が今後も継続され「いくつになっても布下着で過ごせるホーム！」であり続けることに期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、食物繊維、海藻類を取り入れる献立とし、又、乳飲料の摂取、適度な運動を行い、自然排便へと支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本として夜間入浴を実施しているが、希望に応じたり、個々の入浴習慣もあり、早めの入浴にもその都度対応している。	開所時から夜間入浴(17時半から21時半の間)に取り組んでいるが、希望があれば日中の入浴支援にも対応している。自宅でも長湯されていた方には同じように長めの入浴を支援したり、毎日や一日おきなど、本人の希望を確認しながら寛げる入浴支援を実践している。年月を経ても浴室や脱衣所など手入れが行き届き、夏場は窓をオープンにして草木を眺めながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室であったり、リビングの和室であったり、ご本人が思うところで休息出来るよう環境を整えている。個々の体調に合わせ、午前・午後と休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や看護師からの注意事項等、スタッフ全員が理解している。名前の確認に注意し、誤薬の無いようにしている。情報は記録に残し、看護師・医療機関へと連携が出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	早く起きてこられる入居者にはカーテンを開けてもらったり、仏様にお茶・ご飯を供えてもらっている。食事の手伝い等、得意な分野で手伝ってもらっている。煙草を吸われる入居者は場所を決めて楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの花見を実施している。特に春は桜や藤の花が歩いて行ける所にあり、何度も散歩に出掛けている。お盆やお正月はご家族の協力で墓参り、食事会と出来ておられる。年1回の家族旅行も楽しんでおられる。	「今日は天気よか～！どこか行こか～」入居者から出た言葉を大切に支援するホームの姿勢は、開所時から変わらず実践されている。みかんを栽培しておられた方が、ホーム隣のみかん畑の色付きを見て気になられ、『みかンドライブ』を計画したり、地域商店へ必要な物品購入など、個別支援の充実にも努めている。また、面会時に本人を連れ近くの公園に散歩に出かけたり、帰省や墓参など家族の協力も数多く行われている。直近では日帰りとなったが行き先や日程など家族主導による旅行はホームの特徴の一つである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金の所持を希望されている方はおられないが、希望される場合は、ご本人の思いに沿うよう、また管理の部分でも支援できる体制がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や、ご家族への電話はゆっくり話して頂けるよう環境を整えている。又、年賀状の投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室には仏壇があり、毎日手を合わせておられ、家に居るような環境になっている。玄関、廊下には皆で作った作品を飾り、眺められている。	玄関や廊下など絵手紙の大作が飾れたホーム内は、『ギャラリー慈幸苑』とも呼べるように、配置や掲示が工夫され、入居者と来訪者を楽しませている。ソファや和室、玄関先・デッキなど入居者の寛げるスペースは実に家庭的であり、優しさと活気をもち備えた職員のサポートが更に居心地の良さを増している。家族による年末の大掃除支援が継続されており、職員は感謝の言葉を語っている。	職員は自分の得意分野を活かしながら、積極的に季節を感じたり、心和む共用空間作りに取り組んでいる。今後も入居者や来訪者にとっても、楽しみとなるような空間作りに取り組まれることに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とは別にソファを置き、自分の好きなほうで過ごして頂く。幼馴染の方々も同居しておられ、会話を楽しんでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具を持ち込まれている方もおり、又、ご家族からの絵手紙や孫、ひ孫の写真を飾ったり、心地よく過ごせるよう工夫している。	事前訪問や見学時に居室を案内して、質問を受けながら持ち込みの品を依頼し、これからホームと一緒に環境作りを行って欲しいことを伝えている。その方の趣味や特技などこれまでの人生や、家族の思いが伝わり、介護施設であっても自宅のような温もりが感じ取れる。菜園や遠くは有明海など、四季の移り変わりを眺めることができるそれぞれの居室で、入居者は穏やかな時間を過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、自室の名札を利用し、戸惑うことなく移動出来るよう支援している。		